

さいたま市教組新聞

さいたま市
教職員組合
TEL 641-6763
FAX 648-3567
Eメール saitama@kyouiku-net.org
ホームページ
http://saitama6763.web.fc2.com/
2008.12.11(木)
No.148

市教委との交渉で確認 校長への指導の徹底が重要 割振り変更簿利用を校長に指導する

人間関係プログラム 中学校は減らす

【要求】
人間関係プログラムの回数を縮減すること。

【回答】
中学校は〇九年度から、年間一時間とします。一学期六時間、二・三学期は各三時間。小学校は現状通り一八時間です。

【要求】
「英会話」は学校で内容を減らして行えるようにすること。

【回答】
活動内容を変えることは構いません。学校に配布した実践事例集を参考に実態に合わせた運営をお願いします。

【要求】
ALTが定着しない。すぐ変わる。授業が進まない。委託は止めること。

【回答】
学校に迷惑をおかけして済みません。努力はしています。担当指導主事が学校に何って授業参観して指導しています。

【要求】

改定学習指導要領が〇九年度から移行に入る。小学五年から外国語活動が始まる。「英会話」との関連はどうなるのか。

【回答】
「英会話」がそのまま外国語活動に移行する形になります。小学校三・五時間、中学校一七時間は現行のままです。英語ノートは配布しますが使用するかは学校で決めます。

【要求】
保護者が英語ノートを使用するものと誤解することもあるので、誤解を生まぬよう文書等で説明します。

【要求】
市教委が発行するパンフレット類を減らすこと。内容の重複を避けること。

【回答】
市民のみなさんに分かりやすいように最小の経費で最大の効果上げるよう作成しています。

「Let's」は二・三万二二〇円、年三回一〇万二千部。「学校教育ビジョン」は二二六万円、一〇万部。冊子は七三万

九二〇円、八〇〇部発行しています。

【要求】
市教委の学校計画訪問の回数を減らすこと。小学校の三年サイクルのスパンを長くすること。

【回答】
現状のままを考えています。

【コメント】
小学校は七月一四日に学校訪問があった。学期はじめや学期末等、学校の負担が大きい時期は避けるべきだ。

割振り変更簿使用 校長に指導する

【要求】
教職員の超過勤務の解消をすすめること。校長に「勤務の始業と終業を現認する」よう指導すること。割振り変更簿の活用を徹底すること。

【回答】
学校における諸会議の統合、会議の運営の工夫、事務処理の効率化等を学校管理訪問や校長管理研修会の機会を捉え、校長

に指導します。「週休日等の割振り変更簿」の整備と活用を図り、適正に処理するよう校長に指導します。割振り変更簿は「いつでも使える」状態にすることを校長に指導します。

労安法に関しては 市教組と話し合う

【要求】

労働安全衛生法で職員五〇人以上、女子職員三〇人以上の学校には休養室設置の義務がある。まだ設置されていない学校に早急に設置すること。

【回答】
平成一九年度は職員五〇人以上、女子職員三〇人以上の学校は一六校で、休養室がある学校は六校でした。

【組合】
未設置の学校は視察したのか。設置されていないのは違法行為だ。

【回答】
一〇校中二校視察しました。残りは急いで視察して、校長と協議します。

【要求】
市教委内に市立学校職員統括労働安全衛生委員会を設置すること。

【回答】
市立学校職員統括労働

さいたま市教組ホームページ
のアドレスが変わりました
<http://saitama6763.web.fc2.com/>



【要求】
安全衛生委員会の設置については教育総務課と教職員課とで協議します。

【要求】
統括労働安全衛生委員会について市教組、教育総務課、教職員課と話し合いの場を設けること。

【回答】
話し合いの場を持ちます。

中学校の通級指導 教室を設置したい

【要求】
特別支援学級増設と中学校に通級指導教室の設置を。知的障害特別支援学校を新設すること。

【回答】
特別支援学級は学校新設や校舎改築の機会をとりながら設置を検討していきます。肢体不自由特別支援学校を新設します。中

学校に発達・情緒障害通級指導教室設置を検討しています。

【要求】
文科省の全国学力・学習状況調査に参加しないこと。また結果は公表しないこと。

【回答】
昨年同様、結果を公表します。学校の序列化や過度の競争を助長しないよう学校名の公表は行いません。

【要求】
市内一〇校に定数内臨採の養護教諭が配置されている。早急に改善すること。

【回答】
平成二二年度の新採用養護教諭は八名を予定しています。今後も定年退職者や本採用の欠員状況を見ながら、養護教諭の採用をすすめていきます。

平成二二年度の新採用養護教諭は八名を予定しています。今後も定年退職者や本採用の欠員状況を見ながら、養護教諭の採用をすすめていきます。